

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第5103193号

(P5103193)

(45) 発行日 平成24年12月19日 (2012.12.19)

(24) 登録日 平成24年10月5日 (2012.10.5)

(51) Int. Cl.

F 1

A 6 3 B 55/06 (2006.01)

A 6 3 B 55/06

請求項の数 20 (全 9 頁)

(21) 出願番号 特願2008-2470 (P2008-2470)
 (22) 出願日 平成20年1月9日 (2008.1.9)
 (65) 公開番号 特開2009-82687 (P2009-82687A)
 (43) 公開日 平成21年4月23日 (2009.4.23)
 審査請求日 平成23年1月4日 (2011.1.4)
 (31) 優先権主張番号 60/884, 670
 (32) 優先日 平成19年1月12日 (2007.1.12)
 (33) 優先権主張国 米国 (US)
 (31) 優先権主張番号 11/848, 920
 (32) 優先日 平成19年8月31日 (2007.8.31)
 (33) 優先権主張国 米国 (US)

(73) 特許権者 591086452
 カーステン マニュファクチャリング
 コーポレーション
 アメリカ合衆国 85029 アリゾナ,
 フェニックス, ウェスト デザート コウ
 ブ 2201
 (74) 代理人 110000110
 特許業務法人快友国際特許事務所
 (72) 発明者 フランク エイ. クアトロネ 三世
 アメリカ合衆国 85022 アリゾナ州
 フェニックス ノース7番 ストリート
 16220 アpartment 3152

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 ゴルフバッグ

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ゴルフバッグであって、
 頂端と底端とを有する略筒状のボディと、
 そのボディに取り付けられている自動伸張スタンドとを備えており、
 前記自動伸張スタンドは、第1足部材と第2足部材とを有しており、
 前記第1足部材及び前記第2足部材はそれぞれ、上側部分と、中間部分と、下側部分と
 を有しており、

前記第1足部材及び前記第2足部材の前記上側部分はそれぞれ、前記頂端近傍のボディ
 に枢設している上端を有するとともに、第1長手方向軸を含んでおり、

前記第1足部材及び前記第2足部材の前記下側部分はそれぞれ、第2長手方向軸を含ん
 でおり、その第2長手方向軸は前記第1長手方向軸に平行であり、且つ前記第1長手方向
 軸に対して半径方向外側にオフセットされており、

前記中間部分は、前記上側部分と下側部分を堅固に結合しており、

前記第1足部材は、第1回転軸と第1回転面とを定義付ける第1枢動機構によって前記
 ボディに枢設しており、

前記第2足部材は、第2回転軸と第2回転面とを定義付ける第2枢動機構によって前記
 ボディに枢設しており、

前記第1回転軸と前記第2回転軸は、非平行であり、

前記自動伸張スタンドはさらに、前記第1足部材及び前記第2足部材を退避位置から展

10

20

開位置に移動させるアクチュエータロッドを有しており、

前記アクチュエータロッドは、前記ボディの底端に結合している下端と、前記第1足部材の中間部位に結合している第1上端と、前記第2足部材の中間部位に結合している第2上端とを有しており、

前記アクチュエータロッドは、前記ボディが垂直位置から傾斜位置に移動すると、前記第1足部材及び第2足部材を退避位置から展開位置に移動させるゴルフバッグ。

【請求項2】

前記第1足部材の上側部分は、前記第2足部材の上側部分から隔てられている請求項1に記載のゴルフバッグ。

【請求項3】

前記第1足部材の上側部分と第2足部材の上側部分は、退避位置において略平行であり、展開位置において非平行である請求項1又は2に記載のゴルフバッグ。

【請求項4】

前記ボディは、前記ボディの一方の側面に沿って前記頂端から前記底端にまで伸びている略剛体のスパインを有するとともに、柔軟で繊維で形成されたスリーブを有しており、

前記ボディはさらに、前記略剛体のスパインとは反対側に部分的に折り畳み可能な側面を有している請求項1～3のいずれか一項に記載のゴルフバッグ。

【請求項5】

前記ボディは、前記ボディの前記頂端に設けられているリング状部材を有するスロートを備えており、

前記第1回転軸と前記第2回転軸は、そのスロートに対して接するように設けられている請求項1～4のいずれか一項に記載のゴルフバッグ。

【請求項6】

前記スロートは、複数のゴルフクラブを所定のグループに分離する複数の分離部を有する請求項5に記載のゴルフバッグ。

【請求項7】

前記アクチュエータロッドは、U字状のロッド部材を有する請求項1～6のいずれか一項に記載のゴルフバッグ。

【請求項8】

ゴルフバッグであって、

頂端と底端とを有する略筒状のボディと、

そのボディに取り付けられている自動伸張スタンドとを備えており、

前記ボディは、前記ボディの一方の側面に沿って前記頂端から前記底端にまで伸びている略剛体のスパインを有するとともに柔軟で繊維で形成されたスリーブと、前記略剛体のスパインとは反対側に部分的に折り畳み可能な側面と、を有しており、

前記自動伸張スタンドは、前記ボディの頂端近傍に枢設している第1足部材及び第2足部材を有しており、

前記第1足部材及び第2足部材のそれぞれは、屈曲した中間部分によって結合している上側部分と下側部分を有する細長い略Z字状部材を有しており、

前記第1足部材及び第2足部材の前記第上側部分の長手方向軸はそれぞれ、対応する前記下側部分の長手方向軸よりも前記ボディ側にオフセットしており、

前記第1足部材の前記上側部分と下側部分は、同一面内に存在しており、

前記第2足部材の前記上側部分と下側部分は、同一面内に存在しており、

前記第1足部材は、第1回転軸と第1回転面とを定義する第1枢動機構によってボディに枢設しており、

前記第2足部材は、第2回転軸と第2回転面とを定義する第2枢動機構によってボディに枢設しており、

前記第1回転軸と第2回転軸は非平行であり、

前記自動伸張スタンドはさらに、アクチュエータロッドを有しており、

前記アクチュエータロッドは、前記ボディの底端に結合している下端と、前記第1足部

10

20

30

40

50

材の中間部位に結合している第1上端と、前記第2足部材の中間部位に結合している第2上端とを有しており、

前記アクチュエータロッドは、前記ボディが垂直位置から傾斜位置に移動すると、前記第1足部材及び第2足部材を展開させるゴルフバッグ。

【請求項9】

前記第1足部材の上側部分は、前記第2足部材の上側部分から隔てられている請求項8に記載のゴルフバッグ。

【請求項10】

前記第1足部材の上側部分の長手方向軸と第2足部材の上側部分の長手方向軸は、退避位置において平行であり、展開位置において非平行である請求項8又は9に記載のゴルフバッグ。

10

【請求項11】

ゴルフバッグであって、

頂端と底端とを有するボディと、

そのボディに取り付けられている自動伸張スタンドと、

アクチュエータロッドと、を備えており、

前記自動伸張スタンドは、退避位置から展開位置に移動可能な第1足部材及び第2足部材を有しており、

前記第1足部材及び第2足部材はそれぞれ、上側部分と、中間部分と、下側部分とを有しており、

20

前記上側部分は、前記頂端近傍のボディに枢設している上端を有するとともに、第1長手方向軸を含んでおり、

前記下側部分は、第2長手方向軸を含んでおり、その第2長手方向軸は前記第1長手方向軸に平行であり、且つ前記第1長手方向軸に対して半径方向外側にオフセットされており、

前記中間部分は、前記上側部分と前記下側部分を堅固に結合しており、

前記アクチュエータロッドは、前記ボディが垂直位置から傾斜位置に移動すると、前記第1足部材及び前記第2足部材を退避位置から展開位置に移動させており、

前記アクチュエータロッドは、前記ボディの底端に結合している下端と、前記第1足部材の中間部位に結合している第1上端と、前記第2足部材の中間部位に結合している第2上端とを有しており、

30

前記第1足部材の上側部分と第2足部材の上側部分は、退避位置において平行であり、展開位置において非平行であるゴルフバッグ。

【請求項12】

前記ボディは、略筒状である請求項11に記載のゴルフバッグ。

【請求項13】

前記第1足部材の下側部分と第2足部材の下側部分は、退避位置と展開位置において非平行である請求項11又は12に記載のゴルフバッグ。

【請求項14】

前記アクチュエータロッドは、前記第1足部材及び第2足部材の上側部分に設けられているカラーに結合している請求項11～13のいずれか一項に記載のゴルフバッグ。

40

【請求項15】

前記第1足部材及び前記第2足部材はそれぞれ、略Z字状である請求項11～14のいずれか一項に記載のゴルフバッグ。

【請求項16】

前記ボディは、前記ボディの一方の側面に沿って前記頂端から前記底端にまで伸びている略剛体のスパインを有するとともに柔軟で繊維で形成されたスリーブと、前記略剛体のスパインとは反対側に部分的に折り畳み可能な側面と、を有している請求項11～15のいずれか一項に記載のゴルフバッグ。

【請求項17】

50

前記第1足部材及び第2足部材の上側部分は、前記ボディの前記頂端に設けられているリング状部材に枢設している請求項11～16のいずれか一項に記載のゴルフバッグ。

【請求項18】

前記第1足部材と前記第2足部材はそれぞれ、一体成形されたチューブ状部材を有している請求項11～17のいずれか一項に記載のゴルフバッグ。

【請求項19】

前記アクチュエータロッドは、U字状のロッド部材を有する請求項11～18のいずれか一項に記載のゴルフバッグ。

【請求項20】

前記ボディは、前記ボディの前記頂端に設けられているリング状部材を有するスロットを備えており、

前記スロットは、複数のゴルフクラブを所定のグループに分離する複数の分離部を有する請求項11～19のいずれか一項に記載のゴルフバッグ。

10

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、ゴルフ道具に関する。本発明は特に、スタンドを有するゴルフバッグに関する。

20

【背景技術】

【0002】

スタンド付きゴルフバッグが広く知られている。広く知られたスタンド付きゴルフバッグの一例が、特許文献1に開示されている。このゴルフバッグは、軽量繊維ボディを備えている。軽量繊維ボディの頂端と底端には、剛体部材が設けられている。頂端と底端の剛体部材は、ボディの長手方向に沿って伸びている剛体のスパインを介して結合している。スパインは、ボディの一方の側の側面のみを支えている。このため、ボディの反対側の側面は、少なくとも部分的に折り畳み可能である。ゴルフバッグスタンドは、ボディの折り畳み可能な側面に設けられているとともに、一組の足部材を有していることを特徴としている。この特徴によって、ゴルフバッグスタンドの作用が発揮される。足部材の上端は、ボディの頂端にある剛体部材に枢設している。略U字状の形状であるアクチュエータロッドは、ボディの底端にある剛体部材に枢設している。アクチュエータロッドの自由端は、足部材の上端と下端の間の一部に枢設している。

30

【0003】

ゴルフバッグが通常の状態、即ち、筒状の形状であれば、ボディの頂端と底端の間の距離が最大となる。例えば、運搬時のような場合に、ボディの頂端と底端の間の距離は最大となる。この場合、足部材は、ボディに引き寄せられるとともに堅固に保持される。これにより、ゴルファーがゴルフバッグを運搬するときに、足部材が邪魔になることがない。

40

【0004】

【特許文献1】 米国特許第4834235号明細書

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

ゴルファーがゴルフバッグをセットする場合、ゴルフバッグの底端を地面に接地してから僅かに傾けるといって単純で自然な動作によって、ゴルフバッグの部分的折り畳み可能な側面が折り畳まれ、スタンドの足部材が自動的に伸長された状態になる。一組の足部材の枢軸のそれぞれは、ゴルフバッグのスロットに対してほぼ接するように設けられている。したがって、一組の足部材が展開すると、一組の足部材のそれぞれが外側に向けて斜めに

50

広がるので、一組の枢軸が平行に設けられている場合よりも、より安定した三脚を提供する。枢動機構が設けられている位置をより離すと、一組の足部材の斜角が増加し、安定性もさらに増大する。しかしながら、枢動機構が設けられている位置をより離すと、アクチュエータの機構に係る利点が悪化してしまう。斜角の増大によって足部材が長くなれば、足部材がバッグの底面を越えるほど伸びてしまい、自動的な展開機構を妨げてしまう。したがって、枢動機構の斜角を増大すること及び退避位置の足部材の長さが実質的に増大することなく、展開したときにより広い軌道を有する自動伸張型バッグスタンドを有するゴルフバッグを提供することは重要である。

【課題を解決するための手段】

【0006】

10

本発明は、伸張可能スタンドを有するゴルフバッグを提供する。本発明の実施例に示すように、ゴルフバッグは、略筒状のボディと、そのボディに取り付けられている伸張可能スタンドを備えている。伸張可能スタンドは、足部材と連携する。足部材は、足部材の枢動機構の斜角を増加させることなく足部材が展開したときに安定性を増加させる屈曲部を備えている。その屈曲部は、足部材がボディの側面の周囲に折り畳まれるのを可能にし、従来のゴルフバッグスタンドよりもコンパクトに足部材を折り畳むことを可能にする。

【発明の効果】

【0007】

本発明のゴルフバッグによると、枢動機構の斜角を増大すること及び退避位置の足部材の長さが実質的に増大することなく、足部材が展開したときに安定な状態を得ることができる。

20

【発明を実施するための最良の形態】

【0008】

図1～3に示すように、ゴルフバッグ10は、略筒状（スリーブ状）のボディ12を備えている。ボディ12は、ナイロンあるいは他の軽量繊維で形成されているのが好ましい。このため、ボディ12は、柔軟で曲がり易いのが好ましい。スロート14のようなリング状部材がボディ12の頂端16に縫合されている。あるいは、スロート14のようなリング状部材は、他の方法を用いてボディ12の頂端16に取り付けられていてもよい。スロート14は、ゴルフクラブを所定のグループ毎に分離できるようにデザインされている。ゴルフクラブは、そのスロート14を通してゴルフバッグ10に挿入するとともに取り出すことができる。剛体のボトム18は、ボディ12の底端に同様の方法を用いて取り付けられている。スロート14とボトム18はいずれも、鋳物であることが好ましい。これに代えて、スロート14とボトム18はいずれも、従来技術でよく知られている適切な合成樹脂を用いて形成されていても良い。ゴルフバッグ10はさらに、ショルダーストラップ22、取手24、アクセサリポケット26等の様々な他の特徴を備えていてもよい。略剛体のスパイン28は、スロート14とボトム18を相互に結合しており、スロート14とボトム18の間の空間を維持している。この空間によって、スロート14とボトム18の間に距離が確保されている。スパイン28は、木材、繊維ガラスで形成することができる。あるいは、スパイン28は、他の適切な硬い軽量部材で形成してもよい。スパイン28の下端とボトム18は、スパイン28がボトム18に対して回動可能となるように枢設している。スパイン28の下端とボトム18は、枢動機構のような手段でも良いし、あるいは枢動機構を形成する柔軟性のある材料を利用した手段で結合していても良い。上述したように、スパイン28はゴルフバッグ10の一方の側にのみ沿って伸びている。このため、スパイン28に対して反対側のボディ12の側面は、部分的に折り畳み可能である。したがって、ボトム18を地面の上に置くと、図1の矢印Aに示すように、ゴルフバッグ10はこの折り畳み可能な側面に向けて折り畳まれようとする。

30

40

【0009】

ゴルフバッグ10はさらに、U字状のアクチュエータロッド34を有する自動伸張スタンドを備えている。アクチュエータロッド34の下端は、ボトム20に取り付けられているベアリング（図示されていない）に結合している。アクチュエータロッド34は、上方

50

に向けて伸びている２つのアーム３８，４０を備えている。アーム３８，４０の上端は、足部材４６，４８に形成されているカラー４２，４４に枢設している。カラー４２，４４は、足部材４６，４８の上端と下端の間の中間部に設けられている。足部材４６，４８の上端もまた、スロート１４に取り付けられている枢動機構に枢設している。この例では、枢動機構はベアリング５０，５２が用いられている。

【００１０】

図４に詳細に示すように、足部材４６は、カラー４２が取り付けられる上側部分５４と、下側部分５６を備えている。上側部分５４と下側部分５６はそれぞれ、長手方向軸５８，６０を備えている。下側部分５６の長手方向軸５８と上側部分５４の長手方向軸６０は平行であり、両者は同一の面６２内に存在している。面６２はまた、ベアリング５０の回転軸６４を含んでいる。上側部分５４と下側部分５６は、屈曲した中間部分６６を介して強固に結合している。屈曲中間部分６６は、長手方向軸６８を備えており、その長手方向軸６８もまた面６２内に存在している。足部材４８は足部材４６と実質的に同一の形態を有しているので、説明を割愛する。

【００１１】

ゴルフバッグ１０が図２に示す状態の場合、例えば、運搬されている場合や上方に持ち上げられた場合には、ゴルフバッグ１０は、円筒状の形態になる。そのような状態では、ボトム１８がアクチュエータロッド３４を介して足部材４６，４８に作用することによって、足部材４６，４８はボディ１２の側面に引き寄せられるように折り畳まれ、退避位置にセットされ、これにより邪魔にならない状態で保持される。図１及び図２に示すように、足部材４６，４８の屈曲が、枢軸５０，５２を含む面と同一面に存在しているので、乙字状の足部材４６，４８はボディ１２の周囲に折り畳まれ、邪魔にならない状態で保持される。図２に示すように、足部材４６の上側部分５４と足部材４８の上側部分５４ａは、退避位置において平行である。足部材４６の下側部分５６と足部材４８の下側部分５６ａは、退避位置において非平行である。ゴルフバッグ１０が地面に置かれて僅かに傾けられると、ボディ１２の折り畳み可能な部分が折り畳まれ、アクチュエータロッド３４は足部材４６，４８を展開位置にまで移動させる。図３に示すように、足部材４６の上側部分５４と足部材４８の上側部分５４ａは、展開位置において非平行である。足部材４６の下側部分５６と足部材４８の下側部分５６ａは、展開位置において非平行である。

【００１２】

一組のベアリング５０，５２がスロート１４に対してほぼ接するように設けられており、それ故に非平行である。したがって、一組の足部材４６，４８が展開すると、ベアリング５０の軸とベアリング５２の軸の間の角度によって決定される所定量に基づいて、足部材４６，４８がそれぞれ外側に向けて広がる。足部材４６，４８が直線状であれば、図３に示すように、その斜角によって得られるのは所定幅 d_1 である。下側部分５６，５６ａは、ボディ１２の長手方向軸に対して上側部分５４，５４ａから半径方向外側に向けてオフセットされている。このため、足部材４６，４８の姿勢は、図３に示す所定幅 d_2 にまで広がる。これは、アクチュエータ３４と足部材４６，４８の動作ライン間のオフセット「 x 」を増加させることなく、実現することができる。アクチュエータ３４と足部材４６，４８の動作ライン間のオフセット「 x 」が増加すると、アクチュエータの機構的な利点を悪化させ、困難な状況に直面する。一方、足部材４６，４８のユニークな形態によって、アクチュエータのオフセット距離「 x 」を許容範囲内に収めながら、更なる安定性が得られている。

【００１３】

以上、本発明の具体的な形態や方法を詳細に説明したが、これらは例示に過ぎず、この発明の要旨を逸脱しない範囲で種々の変形例や改良例が実施可能であることは当業者であれば言うまでもない。また、本明細書または図面に説明した技術要素は、単独であるいは各種の組合せによって技術的有用性を発揮するものであり、出願時請求項の記載、あるいはそれら記載の組合せに限定されるものではない。また、本明細書または図面に例示した技術は複数目的を同時に達成し得るものであり、そのうちの一つの目的を達成すること自

10

20

30

40

50

体で技術的有用性を持つものである。

【図面の簡単な説明】

【0014】

【図1】 本発明の特徴が組み込まれているゴルフバッグの斜視図を示す。

【図2】 退避位置のスタンドを有する図1のゴルフバッグの要部概要図を示す。

【図3】 展開位置のスタンドを有する図1のゴルフバッグの要部概要図を示す。

【図4】 本発明特徴が組み込まれているスタンドの足部材の斜視図を示す。

【符号の説明】

【0015】

10：ゴルフバッグ

10

12：ボディ

14：スロート

18：ボトム

28：スパイン

34：アクチュエータロッド

38, 40：アーム

46, 48：足部材

50, 52：ベアリング

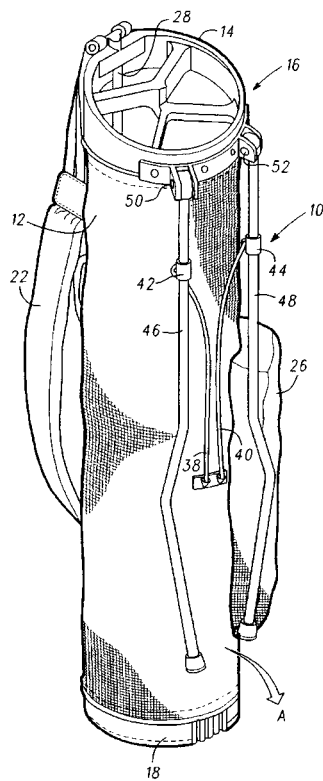
54, 54a：上側部分

56, 56a：下側部分

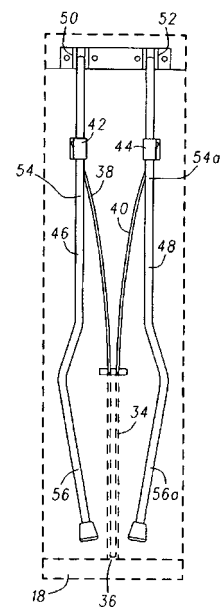
20

66：中間部分

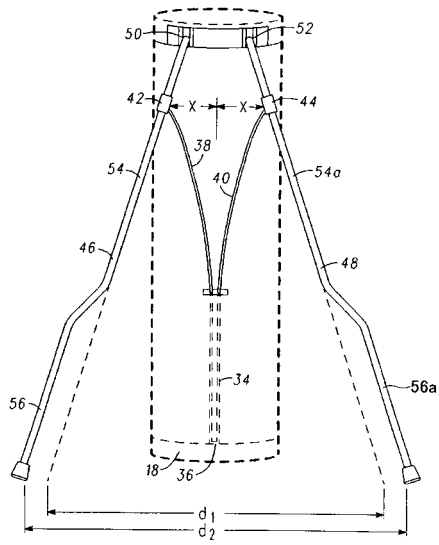
【図1】



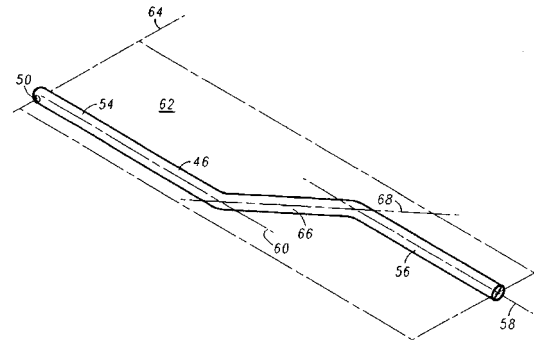
【図2】



【図 3】



【図 4】



フロントページの続き

(72)発明者 ブライアン ジェイ. マクガイヤー
アメリカ合衆国 85281 アリゾナ州 テンピ イースト マッキンリー 120

審査官 ▲高▼橋 祐介

(56)参考文献 特開平02-034181 (JP, A)
特開平05-200133 (JP, A)
特開平08-084792 (JP, A)
米国特許第01975702 (US, A)
米国特許第02663528 (US, A)
米国特許第06325208 (US, B1)
特開平08-252348 (JP, A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
A63B 55/06
A63B 55/00